Mukogawa Women's University Museun



ミュージアムコラム

武庫川女子大学附属総合ミュージアムでは、所蔵する国の登録有形民俗文化財「武庫川女子大学近代衣生活資料」全 9,092 点から季節の主題に沿う資料を選び、一年を通じて学術研究交流館(IR館) | 階ロビーにて展示をおこなっています。

2024 年度夏季企画

ゆかたコレクション

2024年6月7日(金)~8月30日(金)

浴衣は夏季を代表する和服の一種で、現在でも多くの人が気軽に着用を楽しんでいます。その原型は、 平安時代の貴人が沐浴時に着用した「湯帷子」にあり、室町時代後期には武家を中心に、湯上り後の 身拭いに用いられ、江戸時代後期には庶民の間にも普及しました。もとは麻製でしたが、江戸時代中期より丈夫で吸水性に優れた木綿製が主流となります。

明治時代には、注染、捺染などの染技法が発達し、多様な浴衣が生産されるようになり、関東を中心 に外着として「見せる浴衣」へとデザインが展開されていきました。

夏季企画では、近世より作られ続けてきた木綿製の白地や紺地を中心に、大柄でデザイン性に富んだ近現代の浴衣を展示します。



I. 鉄色地流水に朝顔取り文様浴衣 (昭和期)



摺り匹田の流水文に、朝顔取りの木蔦、 撫子、萩が組み合わされている。盛夏に咲 く朝顔と、秋の植物の取り合わせは浴衣に 好まれるモチーフであり、初秋の訪れを感じ させる涼やかなデザインである。

鉄色地にくっきりと白抜きれた文様が映え て美しい。(平)



2. 紺地流水文様浴衣(昭和期)

紺地の浴衣に、大胆な立湧文様が表される。立湧の部分は単純な白抜きではなく、細かな流水文様のようなデザインが施され、シンプルな構図ながらも大小の揺らぎが感じられる、涼し気な浴衣である。紅梅織という技法で、よく見ると無数の格子の地紋が浮き出ているのが分かる。(並木)





3. 紺地花文様浴衣 (昭和期)

矢車草のような花弁がたくさんある花を真上 から見たような、抽象的な円形が印象的な浴 衣。文様を繋ぐように直線が交差し、全体的 に幾何学文様のようにも感じられるが、一方で、 真夏の夜空に浮かぶ花火のようにも見える。 (並木)



パネル展示

4. 紺地渦巻に花文様浴衣

(昭和30年(1955)頃)

ー見すると渦巻に花が浮かぶデザインだが、花の中央に「キンチョール」、「キンチョカトリセンコ」、「ペルメル」等の KINCHO (大日本除虫菊株式会社) の製品名が見られる。 蚊取線香を模したような渦巻文もユニークである。 昭和 30 年頃に提供されていた販促品の反物で仕立てられたのであ ろう。(平)



5. 白地蔓唐草文様浴衣

(昭和戦後期)

繊細かつ優美で柔らかな曲線で表された蔓唐草文は、 珊瑚色や赤紫色の葉をつけ、アールヌーボー調の極端な装 節化がみられる。伸びやかに広がる蔓草意匠は、一定の文 様単位を反復する型染に適しており、浴衣や風呂敷などの木 綿素材の柄に取り入れられることが多い。(平)

